

編集後記

第5号の特集は、2013年から2014年にかけて南アジア諸国で総選挙や大統領選挙などが相次いで行われたことを踏まえ、南アジアのデモクラシーについて考える特集を組んだ。必ずしも政治学を専門としない若手や中堅層の研究者にもあえて執筆を依頼し、それぞれの視点から論じていただいた。もとより政治的な事象は政治学者だけが論ずれば足りることではないし、それは他の事象とディシプリンとの関係についても同様である。専門的な見地からすれば不足している部分もあるかも知れないが、このような試みが、あることがらや問題を学際的に議論するという意思の継承の一助になれば幸いである。

第5号では、第3号に続いて「現代インド地域研究」プロジェクトの研究全体を見通す座談会を企画した。このプロジェクトの第1期の終了にあたり、この座談会をプロジェクトの成果と課題を考える手がかりの1つにして頂ければと願っている。

プロジェクトに1つの区切りがつくのに合わせ、弊誌『現代インド研究』も今号をもってとりあえず閉刊となる。雑誌の構成や投稿規程などから手探りの状態で作り出し、途中さまざまな企画も加えながら、1年に1冊のペースで刊行してきた雑誌である。その間に多くの方からの叱咤を頂き、またそれ以上に多くの激励を頂いてきたからこそ曲がりなりに第5号までの刊行が可能となった。雑誌に投稿、寄稿された全ての執筆者の方々をはじめ、陰に陽にこの雑誌作りをサポートして下さった方々に感謝する。

編集に携わった委員や編集幹事の多くは、学術誌作りの経験が初めてという若手の研究者であった。各自の研究の土台を作っていくべき時期に想像以上に煩瑣な編集作業が課されることは時に酷に思われることもあったかも知れない。しかし、創刊時のねらいである「『インド』研究のさらなる活性化を促す媒体」作りへの貢献は、5冊の確かなかたちとして残った。この経験が将来の研究活動の何らかの糧になることを祈るばかりである。

諸事情によって雑誌という媒体はとりあえず一旦は姿を消すが、この研究プロジェクトが多彩なディシプリンを持つ研究者と研究拠点のネットワーク型のプロジェクトとして持続していくためには、学際的な議論や果敢に新しい問題に新しいアプローチで迫ろうとする開拓的な議論の場が必要なことは明らかである。この雑誌がそのような媒体になり得たかどうかは今後の評価を待つしかないが、第2期以降のプロジェクトにおいても開かれた創造的な議論の場を何らかの形で維持できるよう努めねばならない。また、そのための大方のご支援やご協力をお願いしたい。(M)